

# 知事記者会見の概要

日 時：令和4年11月30日(水) 10:00～10:43

場 所：502会議室

出席記者：15名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 代表質問

- (1) 新型コロナ感染拡大について

### フリー質問

- (1) 代表質問に関連して
- (2) 本県出身スポーツ選手の活躍について
- (3) 本県でのウクライナ避難民受入れ等について
- (4) 山形鉄道によるJR米坂線の一部運行受託について
- (5) 野川政文元県議の政務活動費不正受給に関する住民監査請求について
- (6) JR東日本による利用の少ない線区の経営情報の開示について

< 幹事社：読売・日経・YTS >

## ☆報告事項

### 知事

皆さん、おはようございます。明日から、大分寒さが増すということでもありますので、県民の皆様には、くれぐれもご自愛いただきたいと思えます。

はじめに、本県でのウクライナ避難民受入れ等について申し上げます。

一昨日の月曜日、県と米沢市との連名で、報道機関の皆様へお知らせしたんですけれども、11月26日土曜日にウクライナから1名の方が本県に避難してこられました。現在、米沢市に在住しておられます。市のウクライナ避難民支援員として勤務されているマレンコブさんのお父様であります。現在、県で準備していた米沢市内の県営住宅で、避難生活をスタートされております。

このたびの避難につきましては、病気治療が大きな目的のひとつと聞いております。空気も水も美味しい山形県で、そして、何よりご家族のもと、安全・安心な環境の中で、治療していただき、一日も早く元気になっていただくことを願うものであります。

県としましては、県営住宅の提供に加え、これからの生活を安心して送っていただけるよう生活支援金の給付など、避難民の方が本県で安心して生活を送っていただけるよう、米沢市とも連携しながら引き続き必要な支援を行ってまいります。

ウクライナからの避難民支援の関係でもう一つございます。

昨日、私のところを表敬いただきましたが、今週の月曜日から3泊4日の日程で、東京の国際基督教大学で日本文学などを学ぶウクライナからの留学生5名の方に、本県が持つ多様な文化などを学び、体験していただいているところであります。

これは、戦地を逃れ、日本に避難されたウクライナの学生に、本県の豊かな自然や文化、歴史、美味しい食べ物といったものに触れながら、学びを深めるとともに、県民との心の通った交流を通して、少しでも傷ついた心を癒していただきたいという、本県の避難民受入れ支援の一環として実施しているものであります。

私からは、山形県民の気持ちを代表し、お会いした留学生の皆さんに、県民みんなが心配し、支えたいという気持ちでおりますということ、そして、ウクライナに一日も早く平和な生活が戻ることを願っているということをお伝えしたところでございます。

本県はウクライナからの避難民受入れを全国的にも早い段階で表明し、準備を進めてまいりました。直接本県に避難して来られる方はもちろんですが、今回のように、県外に避難されている方々の気持ちにも寄り添いながら、できる限りの支援をしてまいりたいと考えております。

次に、新型コロナについて申し上げます。

全国の新規感染者数は、増加傾向が続いており、特に北海道、東北、甲信越などで感染が

再拡大しております。病床使用率も全国的に上昇傾向にありまして、感染者数が多い地域をはじめ、多くの地域で3割を上回り、一部の地域では5割を上回る状況となっております。

本県では、11月22日に、過去最多となる2,207人の新規感染者が確認されました。また、直近一週間の人口10万人あたりの新規感染者数も29日現在で93,773人（会見終了後に訂正：937.73人）と、引き続き全国の中でも高い水準でございます。

また、29日現在、重症者はいないものの、病床使用率は54%を超えていることに加え、確保病床以外の入院患者も増加しております。

感染拡大防止を図るためには、感染者の早期発見が大変重要でありますので、無症状の方を対象とした無料の抗原検査及びPCR検査の実施期間を12月31日まで延長することを決定いたしました。

県内130箇所の薬局等で検査が可能でありますので、無症状の方で、検査が必要と思われる方は、積極的にご利用いただくようお願いいたします。

次にワクチン接種ですが、オミクロン株対応ワクチンのいわゆる2価ワクチンは、既に県内31市町村でBA.5対応に切り替わっていると聞いております。

加えまして、県でも、BA.5対応ワクチンの接種を加速するため、市町村と連携した巡回接種事業を11月中旬から実施中でありまして、これまで計6回で2,000名を超える方が接種しております。今後は、12月18日までの週末に計5回を予定しております。このフリップにあるようにですね、今後また、計5回予定しているところです。

会場地以外の住民の方も接種可能でありますので、接種を希望する方は、ぜひ年内中にこの機会をご活用いただきたいと思います。

一方、インフルエンザワクチンにつきましては、新型コロナと同様に重症化予防としてワクチン接種が有効であります。新型コロナワクチンとの同時接種も可能となっております。希望される県民の皆様には、できる限り早めのワクチン接種をご検討いただきますようお願いいたします。

明日から12月に入ります。これから寒さが増すにつれ、窓を閉め切って暖房を使う機会が多くなります。そうしますと、特に、換気が不十分になりがちです。換気が不十分になりますと、エアロゾル感染のリスクが非常に高まりますので、30分から1時間ごとに1回程度、意識してこまめに窓を開けるなど、これまで以上に室内の換気を徹底してください。

県民の皆様には、引き続き、換気の励行、場面や状況に応じた不織布マスクの正しい着用、ゼロ密、こまめな手洗いなど、基本的な感染防止対策の徹底をよろしくお願いいたします。私からは以上です。

## ☆代表質問

記者

幹事社の山形テレビです。よろしくお願いします。

新型コロナウイルスの感染状況についてお聞きします。県内では、今月過去最多となる2,000人以上の新規感染者が確認されるなど、全国同様に感染拡大傾向にあります。こうした状況などから、県内も感染の第8波に入ったという認識はあるか伺います。重ねて、県外のコロナ病床の使用率50%を超えている状況になっていますが、政府が新設した都道府県で独自に発令できる対策強化宣言に関して、現時点で宣言を出す考えはあるのかお尋ねしたいと思います。

知事

はい。では、お答え申し上げます。

本県では、11月22日に過去最多となる2,207人の新規感染者が確認されたほか、11月中はほとんどの日で、前の週の同じ曜日を上回っている状況でございます。ただ、昨日と一昨日は前の週をです、下回ったところであります。人口10万人あたりの新規感染者数を年代別に見ますと、11月上旬までは、10代及び10歳以下の年代での感染者数の伸びが大きくなっておりましたが、その後は、家庭内感染の広がりなどにより、親世代の30代で急激に増加しております。

一方、全国的にも新規感染者が増加している状況を踏まえ、日本医師会の釜范常任理事は、「新たな波が始まったと捉えざるを得ないのではないかと」と16日にコメントしておられます。そのほか、17日には、全国知事会の平井会長が、「第8波が容赦なく、各都道府県で立ち上がっている」とも発言されているところです。こうした中、本県がいわゆる第8波に入ったかどうかということにつきましては、医療専門家のアドバイザーにお聞きをしてみました。そうしたところ、県内も第8波に入っていると捉えているというご意見がある一方で、第7波が収束せず延長しているといったご意見もありました。とりわけ、医療提供体制の状況を見てみますと、本県の病床使用率は29日現在で54.6%となっているほか、確保病床以外の入院患者も急増しております。また、感染の急拡大により、医療従事者の感染者や濃厚接触者が増加していることから、手術や診療制限も行う病院もあるなど、一部の医療機関においては、一般診療への影響も生じているところです。さらに発熱外来につきましては、検査や診察に訪れる方で混雑し、地域によっては受診枠がいっぱいとなる状況もあると聞いております。こうした状況も総合的に踏まえますと、本県でもいわゆる第8波に入っているものと捉えているところでございます。

それから、宣言についてのお尋ねであります。今般、政府から示されたこの秋以降の感染拡大で、保健・医療への負荷が高まった場合の対応についての取扱いにつきましては、感染の状況や医療提供体制のひっ迫状況、新たに示されたレベル分類への対応を考えなければならないため、本日午後に新型コロナの危機対策本部会議を開催して、協議・決定するとい

うこととしております。本日午後に会議を開いて協議するというので、そういうようなお答えでございます。

☆フリー質問

記者

共同通信、阪口です。お世話になります。

コロナについて言及がありました。知事も今月感染されていたと思うんですけども、どういうふうな症状があって、どういうところに苦勞されたとかってということで、何か言及できることがあれば教えてください。

知事

そうですね、私も、誰がいつ感染してもおかしくない状況だというふうに思っておりました。まず感染対策をしっかりしながら県外出張も行っておりましたし、様々な活動を行っておりました。そうしたところ、症状は無かったですけれども、濃厚接触の可能性があるというような状況にありましたので、抗原検査を行ってみましたところ陽性となりまして、その日は日曜日の夕方と言いますか夜だったんですけども、月曜日には、医療機関を受診いたしました。そこで、症状が無いというようなことで、解熱剤というものが処方されましたけれども、それも使うこともなく自宅療養に入りまして、そして、金曜日にまた自主的に検査をしてみましたところ陰性と出たんですけども、その旨を医療統括監に報告して対応を聞きまして、この時点でPCR検査をすれば、また陽性になる可能性もあるので、念のために日曜日まで自宅療養をすることをお勧めします」ということでありまして、日曜日まで自宅療養をしておりました。

業務に関しては、リモートワークで対応しておりましたので、そのことで不都合は感じませんでしたけれども、外出は本当に全くしなかったです。無症状でしっかり感染対策をすれば買い物くらい行ってもいいというような政府の確か、考えだったと思いますけれども、念のために私は家の中で隔離生活をしておりました。

そうですね、自分のことよりも、こういう無症状のような人がたくさん居られて、7日間、お仕事を休まなければならないということになりますと、リモートワークできるような業務であればいいんですけど、そうでない現業の方々もたくさんいらっしゃるだろうと思ひまして、また、小規模な事業所もたくさん、本県の中にはありますので、そういうところでは非常に、人手を回すと言いますか、それが大変だろうなということを私は考えておりました。

そういうことで、中小小規模事業者のところで感染者あるいは濃厚接触者が出た場合は、検査キットをですね、希望するところに配布するという事業も始めておりますので、そういったこともご活用いただきながら、事業継続ということに、やはり、大変ご苦勞されていると思うんですけども、活用していただきたいと思っております。

また、先ほどの第8波ということとも関連するんですけれども、医療専門家の方に伺いますと、「もう風邪みたいになってきたんだ」という、そういうことをお聞きしました。ですから、政府がですね、(感染症法上の分類を) いつ見直しということに入るのかなということを非常に注目をしておりました。最近、そういった検討に入りたいというようなことを厚労省、厚労大臣も言及されているということでありますので、その動向をしっかりと注視していきたいと、適切に対処をしてまいりたいというふうに考えております。

もう一つ、私が無症状だったということは、おそらく、ワクチン4回接種しておりました。それから、インフルエンザの予防注射もちょうどした後だったので、そういったことも功を奏したのかなと思いますので、県民の皆さんにはやはり、重症化しないというような要となるワクチンをですね、希望する方は早めにぜひ、打っていただきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。

今、最後と言うか、終盤に言及ありました、厚労大臣が分類の見直しを検討しているということですが、知事としては、どの程度まで緩めるというか、緩めるという方向になると思うのですけれども、どういうふうな見直しがいいというふうに望んでいらっしゃるのか伺えますでしょうか。

知事

そうですね。そこはやはり、どういう段階を経てなのか、あと一気になのか、ちょっと分かりませんので、やはり専門部会といったところで検討されるんだろうと思います。医療専門家の方々のたぶんどご意見も踏まえた上で、厚労省で決定されると思いますので、その内容はですね、やはり、こちらとしては、しっかりと注視してまいりたいというふうに留めたいと思います。

記者

ありがとうございます。あと、第8波ということでですね、前回もその話を伺ったと思いますけれども、まさに今から忘年会シーズン、計画しているところ、たくさんあると思います。3年ぶりにというところもたくさんあると思うのですけれども、そのあたり、どのように県として呼びかけるとか、午後の対策会議で決められるのかもしれませんが、そのあたり、今のところ見通しがあれば教えてください。

知事

そうですね、詳細はやはり午後の危機対策会議で協議・決定ということになりますけれども、これまでも申し上げております、やはり感染対策と社会経済活動の両立を図るとい

うことも非常に重要であります。現在のオミクロン株の感染力や重症化する度合いといったことを踏まえれば、現時点では行動制限を行う状況にはないのではないかというふうに捉えております。

ただ、本当に換気とかですね、会話する時のマスクというふうに、感染対策をしっかりと徹底していただきながら、社会経済活動に取り組んでいただければというふうに思います。

記者

ということは、別に忘年会は積極的にというか、普通に計画している分にはやっても構わないのではないかというような考え方でよろしいでしょうか。

知事

はい。会議がありますので、そこで、そういった忘年会といったことにも関わってくると思いますので、そこをお待ちいただきたいと思います。

記者

あと、すいません、話題変わるんですけども、阪神タイガースの中野拓夢選手がベストナインを獲られたと思うんですけども、県関係者のこの活躍ぶりをですね、知事としてはどのようにご覧になっているのかなと思ひまして、伺えますでしょうか。

知事

はい、大変ご活躍されて、喜ばしいことだなというふうに思っております。県民に元気と活力、全国にですけれども、特に出身県である本県の県民には特に喜びや元気を与えてくださっていると思っています。私の記憶、定かでないんですけど、本当にご活躍されているので、雪若丸を進呈することにしたのではなかったかと思ひますけれども。ご活躍に対するお祝いメッセージみたいなものと、雪若丸を確かお送りすることにしたのではなかったかと思ひますけど、秘書課長どうでしたか。(秘書課長に確認)

雪若丸ですね、私の記憶だと。スポーツ選手は「雪若丸」というふうに、確か決めていたかなと思ひます。

(会見終了後、担当者から、中野選手には知事のメッセージを添えて雪若丸30kgを贈呈する予定との説明を行った)

記者

同様に、と言うのもあれですけれども、上山の伊藤美優選手がスケートボードの日本選手権のストリート女子で、15才でしたっけ、優勝されたということもありました。なかなか喜ばしいニュースかなと思うのですけれども、知事どのようにお考えでいらっしゃいます

か。

知事

そうですね。私は、新聞で拝見をしまして、いや本当にそれも、新しいスター誕生というふうに思いました。次々とやはり、スポーツ界で活躍してくれるアスリートが、続々とですね、出てきてくれるということは、本当にこのコロナ社会にあって、明るい話題だと思っておりますし、本人、また周りの方、県民にとって本当に元気と活力を与えてくれる存在だと思います。

ぜひ、今後もですね、しっかりとご活躍いただきたいなど、できれば世界の舞台でも活躍されるような、そういった大きな目標もですね、持っていただければありがたいというふうに思っています。

記者

1点伺い忘れました。ウクライナからの避難民受け入れということで、県としてはかなり早目に対応されていたと思います。その中でやっとなという形になると思いますが、避難民を受け入れられたこと自体への知事の感想というかですね、そのあたりはいかがでしょう。

知事

そうですね。やはり、本当に正直申し上げて、ここまでウクライナ侵攻が長引くといったことはですね、当初では考えられなかったかなと思います。今まだですね、先行きが見通せないという状況でありますので、これからの寒い冬を迎える中でウクライナの皆さん、本当にご苦労されると思います。日本として、また山形県としてできる限りの支援でありましたり、応援でありましたり、できることをこれからも引き続き行っていきたいというふうに思っています。

本県としては、初めてですね、米沢市内在住の方のご家族の方が病気治療ということで、避難されてきましたので、本当にこの平和な安全なところで、しっかりと治療していただき、一日も早くお元気になっていただきたいというふうに思っています。

記者

河北新報社の栗原です。よろしくお願ひいたします。

私からは、フラワー長井線とJR米坂線についてお尋ねいたします。

先日、長井市長選で5選された、内谷市長が記者会見などで、米坂線の一部運営について山形鉄道が委託を受ければ、双方にメリットが生まれるのではないかなという主旨の、あくまでも構想と言いますか、腹案ではあると思いますけれども、そういった発言をしました。具体的には、JRが使わなくなった車両を長井線で活用する代わりに、運行業業

務は山形鉄道で行うということですが、その腹案について、知事としてはどのようにお考えでしょうか。

知事

はい。内谷長井市長がですね、ご発言されたということ、山形鉄道株式会社におけるJR米坂線の一部運行受託というような、それに関するご発言があったということは、私も報道で承知をしておりますけれども、それ以上のことは承知をしておりませんので、今の時点でコメントすることは差し控えたいというふうに思っています。具体的な内容は検討しているところというふうにもありましたので、そういうお考えもあるというようなことを、私としても報道を通して知ったというところであります。それ以上のことはちょっとコメント、今の時点では差し控えたいと思います。

記者

もうちょっと、突っこんでお尋ねしますが、その案について、知事としては一つの選択肢として残す可能性もあるのか、それとも全くその案はちょっと考えられないと受け止めているのか、どちらなのでしょう。

知事

あらゆる方策ということはやはりね、否定しないほうがいいと思います。やっぱり米坂線というのは、非常にこう、本県と新潟県とを結ぶ重要な路線でありますので、何としても復旧していただきたいということで、復旧に向けて要望をこれからも続けてまいります。

そういった途上ですね、いろいろなご提案やご提言やらが出てくるかもしれませんので、本当にいろいろなことをおっしゃっていただくのはよろしいのではないかとということで、いいとか悪いとかまでは言及しないでおきたいと思います。

記者

ありがとうございます。

記者

(知事が) コロナから立ち上がれて良かったと思っています。戻られて良かったと思います。先週になりますけれども、市民オンブズマンさんのほうですね、住民監査請求を出されました。内容は、昨年から今年にかけてありました、元県議のね、政務活動費の不正受給の問題なんですけれども、それに対して知事が、知事というか山形県が返還請求しないのは遺憾に思うということでの住民監査請求なんです、まだ住民監査請求が受理されたかどうかちょっと、僕は確認していませんけれども、今の知事のちょっとお気持ちな

りお考えをお伺いしたいのですが。

知事

はい。11月25日に監査委員に対して、住民監査請求が出されたということについては承知をしております。今後、監査委員のほうで請求内容を確認の上、監査結果をまとめていくというふうに聞いておりますので、現段階で私のほうからのコメントは差し控えたいというふうに思っております。

今、ちょうどその監査結果をまとめていくというふうに聞いておりますので、そこを見守りたいというふうに思います。

記者

監査結果が出た場合には、県として何らかの対応をしなきゃいけないとか出た場合、それを順守するというお立場ですか。内容にもよりますけど。

知事

準備ですか。いや、準備ということではなくて。

記者

監査結果が出た後に、その内容、方針が出た後に、県としては、知事は、その結果通りにやるお立場ですか。

知事

そうですね、監査委員において監査結果をまとめていくということでもありますので、そのまとめた監査結果というものをですね、やはりしっかりとそこを踏まえて適切に対処してまいりたいというふうに思っています。現時点ではどういうことになるのかもまだわかりませんので、コメントは差し控えさせていただきたいと思います。

記者

時間的にはいつごろかわかりますか。

知事

60日以内で監査結果をまとめていくと聞いておりますので、そういった時間帯かと思えます。

記者

どうもありがとうございます。

記者

朝日新聞の小川です。

先日、JR東（日本）からローカル線の収支が発表、21年度の発表がありましたけども、山形県についても一部の路線で対象の赤字区間の路線がありましたけど、これについて見解をお聞かせください。

知事

はい。11月24日にJR東日本から利用の少ない線区の経営情報が開示されました。県内では、これまでも公表されていた6路線10線区について、令和3年度の経営情報が開示されたわけです。引続き、コロナによる利用者の減少もありまして、厳しい状況が続いております。

ただ、これまでも申し上げておりますように、鉄道というのは、通勤・通学など地域住民の日常生活を支える交通機関であります。ということに加え、観光などの様々な広域的な交流を生み出すものでもあります。ネットワークとして県内各地域がつながることによって、鉄道網全体の価値が最大限に高まるものであると考えております。

とりわけ、山形新幹線の通っている本県におきましては、コロナ前に年間約300万人の利用があった山形新幹線の大きな旅客流動を、県内の各路線や、さらにはバスなどの二次交通を通じて、いかに県内の津々浦々に波及させていくかということが重要であると考えています。

また、鉄道は環境負荷が低いということもあって、SDGsやカーボンニュートラルといった視点からも大変重要です。ヨーロッパもですね、コスト一辺倒ではなくてカーボンニュートラルといった視点でも鉄道を重視しているというふうには聞いているところです。

これまで県では米沢トンネル（仮称）の早期整備の実現に向けて、多種多様な貨物の新幹線輸送を行ったり、霞城セントラルに皆さんご案内の通り「スタートアップステーション ジョージヤマガタ」を開設したりしました。そうやって鉄道輸送における付加価値向上や沿線におけるビジネス活性化などを図ってまいりました。

また、先月の24日にはJR東日本と「山形県内の鉄道の沿線の活性化等に関する包括連携協定」というものを締結しました。JR東日本ともより強力で連携して、鉄道沿線の活性化を推進する体制を構築いたしました。

さらに、こうした取組みを市町村などの地域の関係者とも連携して加速させるため、このたび、県内の全市町村や関係団体が所属する「山形県鉄道利用・整備強化促進期成同盟会」というのがあるんですけど、そこのもとに、新たに「やまがた鉄道沿線活性化プロジェクト推進協議会」というものを設置して、今週金曜日に第1回協議会を開催する予定でございます。

これらにより、JR東日本や市町村、経済界、関係団体等と更なる連携を図り、県内一丸となって県内全域にわたる沿線活性化の取組みを一層加速させることにより、旅客流動が

少ない線区の廃止やバス転換といった縮小均衡の思考に陥ることなく、県内の地域活性化と鉄道事業の発展の双方を実現してまいりたいと考えているところでございます。

記者

ありがとうございます。

記者

日本経済新聞の増渚です。

先ほどの河北さんの質問に合わせてお伺いしたいのですが、米坂線に関しては要望を続けていくというお話でしたけども、この復旧要望というのはやっぱりJRがJRとして復旧させるということを要望していくのか、それとも長井市のような提案が出てきた際はそういった部分も含めて幅広にJRと考えていくのか、その辺のスタンスとしてはどうでしょうか。

知事

そうですね、今JR米坂線が一部運航ということを行っていただいておりますけど、そもそもがやはり災害による運休でありますので、その災害復旧はすごく大事だというふうに思っています。

まずはやはりJR東日本に対して、あそこは新潟の方が担当とも聞いているんですけども、災害復旧という観点からですね、国土交通大臣もいらっしゃいまして、まず災害復旧と、廃止ありきではなくて災害復旧という視点でということを力強いお言葉でおっしゃっていただきました。県としてもその方向でですね、沿線自治体、また新潟県と一緒に災害復旧という観点で取り組んでいただくように要望してまいりたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。

記者

NHKの桐山と申します。よろしく申し上げます。

すいません、先ほど朝日新聞さんの質問に対してですね、旅客誘導の少ない線区の廃止やバス転換といった縮小均衡の思考に陥ることなくという、県内の地域活性化と鉄道事業（の発展）の双方を実現してまいりたいと知事は発言されました。

ただ、一方でですね、三陸の沿岸のようにBRT（バス高速輸送システム）に転換して、例えば病院の近くをバスが走ることによって、あるいは便数を増やすことによって、よりその地方の人にとっては利便性が増したという事例もある一方で、北海道のようにバス転換をしても利用者が伸び悩んで結局廃止になってしまったという、バス転換にもプラスになっ

たところもマイナスになったところもあるかと思うんです。単純に、バス転換したことによって、より利便性が上がるケースもあると私は捉えておまして、そのことについて、住民の方とか地域の方に意見を聞きながら幅広に考えていくというお考えは今のところどうなんでしょうか。

知事

はい。そうですね、私はやはりいろいろなことを否定するというようなことではなくて、将来的にはね、様々なことがあるんだろうと思います。ただ、最初から、なんと言うのでしょうかね、縮小ありきということではなく、やはり米沢トンネルをこれから、山形県の未来の発展のためにしっかりと取り組んでいきたいというふうにも思っておりますし、そのJRさんと一緒になってやはり鉄道沿線活性化ということにも取り組んでいきますので、まずそこを大切にしながらですね、またいろいろな観点というようなこともやはり、まったく否定するというようなことではなくて、しっかりと活性化させながら、様々なお考えといったこともですね、でも今の時点でそこをすぐに急展開というようなことではないというふうに思っています。

まずは沿線自治体がしっかりと復旧してほしいと言っておりますので、一緒になってやっぱり取り組んでいく、その先にいろいろなことが待っているかもしれませんが、まずこの段階でそういうふうに取り組みたいということを今申し上げました。10年後、20年後どうするかというようなところまでは、ちょっと今は言及できないかなと思っております。

記者

承知いたしました。あと、鉄道の、沿線の活性化ということもお伺いしましたが、例えば茨城県のひたちなか市のほうではですね、新たに鉄道を延伸して、駅の近くに学校を建てることによってその通学者需要を呼び起こして、鉄道の黒字化も実現していく、収支改善も実現していったというような例もあります。その県であったり、県営の施設であったり、あるいは学校であったり、その市町村とかとですね、そういったまちづくりというところで自治体、あるいは県が担いながらその鉄道の活性化をしていくというそういうオプションも今のところ検討していくというような考えでよろしいですか。

知事

そうですね。そういったことも可能性の一つだというふうに思います。